



発行所
東京片貝会
東京都港区芝公園2-11-4
電話 (433) 5925

東京片貝会報

若い人達の集い

励ましあいと友情で、
明るい未来をきり開こう

○11月23日(勤労感謝の日) 正午より
○会場 港区立赤坂小学校

東京片貝会は昨年(昭和50年)の新しい組織づくり以後、十年も二十年も若返ったといわれています。しかし、学校を卒業してもない20歳前後の方々の参加は、数えるほどしかおられません。

私たちはこの会が、単に懐古的な会合にとどまることなく、もっと前向きな意義あるものになりたいと考えておりました。

そこでこのたび、母校の中学校、同窓会の友田明石氏(農協勤務)、そのほか多くの方々のお力添えを得て、若い人たちの集いを開くこととなりました。

新年会予告



来春の新年会も芝の増上寺で、1月30日に行なう予定でおります。まだ、内容は決まっていますが、改めてご案内申しあげます。

好評の福引はもちろん、参加委員の予興などを歓迎いたします。また皆様のアイデアによる楽しい企画がありますら、ぜひお知らせください。

毎日ご多忙のこととお察しします。また、わざわざ会場まで出てきてくださるのも、大変なことと思います。しかし、同級生互いにご連絡の上、ぜひご出席ください。今回は中学校の20回から26回卒の方々全員にご案内申しました。(東京、神奈川、千葉、埼玉在住) ご案内の皆様には、別紙で詳しい内容のご通知をさしあげてありますが、一般会員の方々も、この催しが成功いたしますよう、進んで賛助出席くださいますならば、まことに嬉しいと思ひます。

会の事務所へのご連絡はつぎの時間帯にお願いいたします。

平日、朝は9時頃までに、夕方は午後6時頃より、土曜日は午後2時頃より、日曜日はいつでも構いません。

電話 (03) 4333-5925 (佐藤)

お願い 会費値上げ

これまで年会費を五百円いただいておりましたが、六月の総会で来年度より七百円とさせていただきますことになりました。千円に上



新しくできた屋内体育場

げは、どの要望もありました。皆様の負担を考慮して、このようにきめました。郵便物の値上げが、会計にひびいています。よろしくご理解くださいますようお願い申します。

ふるさと

だより

中学校の体育館完成
本年二月末に、すばらしい屋内体育館(約1000m²)が完成した。三十周年式典もここで挙行されるが、生徒の体育活動に大きな力となっている。

市代表の健康優良児
小学校六年生の大矢政之君(町裏)は、51年度の健康優良児に選ばれた。おめでとよ、交通安全優良校一表彰
小学校では、さる七月に日頃の訓練と無事故のよい成績が認めら

創立30年を迎える

片貝中学校

式典、十一月七日(日)

昭和22年5月に開校した中学校が、本年で三十年目を迎える。そこで来る十一月七日に、新しく完成した立派な体育館で、お祝いの式典と祝賀会が行われる。

これに先だつて、十月三十一日には小中学校合同の作品展が開かれるという。ほんといふにめでたいことである。

れて、県知事表彰を受けた。その際いただいたりばい楯は、校長室に飾られてある。(五一・七・一〇)

秋祭大相撲に会より賞金
秋祭りの様子は四面にお知らせの通りですが、恒例の大相撲も盛大に行われた。その際、三人抜き五人抜きに対して、各方面よりの賞金が提供されたが、東京片貝会からも、景気をつけさせてもらい場内を湧かせるのに、一役買った

町民運動会
毎年秋に行われている町民運動会は、今年も賑やかに実施されることになった。各町内の会長さんがせわ役になり、町民一体の運動会が行われる。(一〇・一七)

保育園の新設
いまお寺にある二か所の保育園は、来年四月から市の公立保育園として生れかわることになった。佐藤家の裏地に、鉄筋のりっぱな施設ができあがる。

科学研究で県知事賞をいただいた。(昭43)
かつては生徒数が五百名を越えたこともあったが、今では一学級編成で二百六十名である。然しこの間の卒業生総数は、来春で四千五百名を数えることになる。

生徒数では必ずしも大規模とは言えないが、中越の優秀校として教育界に注目されているのは、まことに力強い限りである。

昭和51年度懇親総会

交歓の渦は、新緑の空に さわやかにこだまして

—六月六日午後一時より—

朝から曇っていた空は、次第に明るくなり、やがて快い初夏の陽が輝きたる。
昨年の雨には、どんなに氣を遣ったことか。今朝ばかりは、心もうきうきと会場へ向かう。

すばらしい会場です
文京区民センターは、りっぱな

会場では、設備も整っている。ここを借りられることになったのは、同区の会員黒崎正氏の尽力によるものであり、感謝に堪えない。
お世役一同は、二時間前に集合して、会場作成に当たった。正午を過ぎる頃、皆さんは続々と来会され、受付はてんでご舞い。
参加者二二五名



会場を埋め尽した総会風景

来賓には別掲のように、郷里の代表的有力者、特別会員、新潟県人会、東京小千谷会など多彩の顔ぶれであった。中でも今回は、長年小中学校で教職に在られた本田寅一郎先生がご出席くださった。定刻に近づくにつれ、広い大会場も、ざっしり人、人の渦となる

荻野小千谷会長をはじめ、南雲氏(県人会)は、こんなに盛大な郷土会は経験したことがない、と洩らしておられた。
四年前から、新名簿作成の調査整備を続けてきたが、今回漸くまとまったので、これを皆さんにお届けすることができた。

総会で決まったこと

一時十五分に開会、まず会計報告、会費値上げ(五百円より七百円)の件をはかつて、ご承認いただいた。

続いて高齢会員として、長い間本会にご協力くださった高野三郎氏、丸山フジさんに、記念品を贈呈、来賓各位より祝辞をいただいた。懇親会に入った。

郷里の物産即売

当日は今回はいじめての試みとして、郷里の商工会(会長本田善治

氏)にお世話願ひ、物産の即売を行なった。

米菓は小宮製菓、羊かんは三島屋、池田屋、紺仁の草木染と懐かしい品々が数多くならべられた。しかも定価の二割引きと、最大限のご協力をいただいたため、大好評羊かんは忽ち売り切れとなるほどだった。

懇親会は高野三郎さんの乾杯で開始された。同級会を総会といしよに開いてくれた年度、何十年ぶりで再会し、少年時代に戻った人たち、平素は離れて暮らして



校歌を歌う植村校長先生

る兄弟姉妹、親子も、きょうは一堂に集って、場内はむせるような熱気に包まれた。

和やかに楽しく

日頃腕に覚えのある会員諸子の歌や舞踊がつぎつぎと披露されるうぐいすのような声、美しい曲線美に一同すっかり魅了させられた中でも圧巻だったのは、会員有志のせわで演奏した「しゃぎり」である。法被はわざわざ片貝から本田さんが持ってきてくださったの

だった。

後で聞いた会員の感想によると、あの朗々とした音楽を聞いていると、在りし日の少年時代が思い出されて、涙のこみあげる思いであった……と。

会も最高潮

宴も五時近くなると絶頂に達した。植村小学校長、藤田中学校長がつぎつぎと壇に上られて、若い会員たちといしよに校歌の斉唱がはじまった。正に校歌は心のふるさとである。校歌を知らない先輩者にも、大きな波動となつてひびいたことと思う。
やがて六時も近くなり、散会のとぎがきた。来年の再会を約して万才三唱。みんなはふるさとの慈母の胸に抱かれたような温い思いを、いっばいに噛みしめながら帰途に着いた。

省みて

会場予約の苦労もいろいろありましたが、公共施設に日曜日飲み物を持ち込むのに、人には分らぬ苦心がありました。然し長谷川江津、黒崎孝造さんの積極的な協力があつたので、やっと実現しました。ご厚志を深謝しています。
出席の申込みがあつて当日何の連絡もなくお出でいただけなかった方、また申込みないで、当日出席くださった方がかなりありました。

親睦会ゆえ、一人でも多くの方が参加いただくことはまことにありがたく、嬉しいことです。しかしそのために、さし上げねばならぬ料理が今回も不足してしまつた

新野製菓東京営業所

新野 誠之助 (昭和25年卒)

板橋区小茂根 3-12-5

TEL (974-6000)

日新火災海上保険 (株)

火災・自動車・交通・住宅保険
等各種

代理店 渡辺左武郎 (大正11年卒)

台東区池ノ端 2-5-28

自宅 822-4971

営業所 834-1631-5

大矢工務店

大矢福次 (大正12年卒)

中野区弥生町 4-25-7

TEL (382-1885)

木造、鉄筋、内部改造何でもご用命ください。

のは、何とも申訳けりませんでした。かなり余分に注文した筈なのに、それでも足りなくなつてしましました。次回はこのようなどこないよう、切にご協力をお願い申しあげます。

当日の来会者(二五名)

来賓 助役柄沢栄夫、協議会長 安達基吉、農協会長浅田時勇、市議会議長吉井進吉、市議本田善治、中学校長藤田英雄、小学校長植村敬一、恩師本田寅一郎、内山サカエ、特別会員太刀川太郎、長谷川昌夫、新潟県人会雲重一雄、東京小千谷会長長野虎吉(以上十三名) 会員(小学校卒業年度順) ・明治一高野三郎、丸山フジ ・大正一安達市郎、丸山貴司 品田軍治、大矢修一、相崎政弘、山崎キイ、安達電作、吉原ヤウ、南零吉松、藤塚太郎、高桑キイ、佐藤正雄、安達静子、広井三代次、芝孝二、黒崎セキ、丸山松江、大塚藤吉、神林徳次、小林倉三郎、大矢福次、相崎尚次、小野塚イシ

片貝に宿泊施設を おせわいたします

郷里に実家のある人が、大部分と思いますが、中には、もう実家のなくなつておられる方もあります。ところが、片貝には泊めてくれる旅館がありません。お祭、お盆のときはもちろんですが、所用があつて宿泊を希望しても、それができないために、長く郷土訪問もできない方のために、こんど東京片貝会が低廉な料金で宿泊施設のおせわをすることになりました。只今、「片貝会館」「正順寺」と話しあつています。このほかにも適當のところが見つければ交渉する予定です。具体的な金額、条件をこれから煮つめ、新年会の席で発表したいと考えています。宿泊を希望される方は、会までご相談ください。新年会前でもあつせん申しあげます。

和田力子、安達道宗、山口盛作、清水六郎、佐藤量八、吉井秀五郎、安達シズ、安達宗吾、能沢敬治、大矢テル、黒崎次郎、三重堀繁蔵 ・昭和27、30年 小川茂雄、本田政秀、日下部政子 相崎勇次、山田せじ、小野塚マツ 丸山広弥、山田雅子、早川松太郎 友田勇四郎、浅田喜八郎、丸山千代野、吉井武二、小林サウ、安達吉次、桑原沙紀子、美濃村ヤウ、幸川とし、佐藤又次、田中きみ子 丸山 春、藤田睦子、相崎善次郎 小宮竹次、黒崎孝造、長谷川ウメ 安達幸一、大矢幸治、城取八重子 佐藤藤一、石田定子、芝三四司 丸山 茂、武藤睦子、高橋千代子 本田チヨ、堀井豊作、山口武一郎 森本比夫、堀井篤治 ・昭和11、20年 山口信次、高橋四郎、吉井正次、吉原武次、高橋一郎、浅田鉄夫、安達保治、友田正雄、小宮秀夫、本田謙作、佐藤広次、山口吉五郎 大矢常吉、山田チエ、小野塚忠治 横山栄治、近藤ヤウ、黒崎和一郎 丹治きみ、小宮八重、五十嵐忠作

51年度新年懇親会

昭和51年1月25日午後一時より

芝増上寺の西館一階の大広間で新しい組織になつてはじめての新年会が催された。出席者百〇四名、さしほ広い九十畳の会場も、人いされるほどの盛況だった。三重堀副会長の開会の言葉に始まり、安達前会長が「新しい息吹きに満ちた新年会に参加して、たいへん嬉しい。」続いて佐藤会長が本年度の抱負を述べて懇親会に移った。 芝増上寺の西館一階の大広間で新しい組織になつてはじめての新年会が催された。出席者百〇四名、さしほ広い九十畳の会場も、人いされるほどの盛況だった。三重堀副会長の開会の言葉に始まり、安達前会長が「新しい息吹きに満ちた新年会に参加して、たいへん嬉しい。」続いて佐藤会長が本年度の抱負を述べて懇親会に移った。 会員有志の日本舞踊、詩吟などがつきつきと披露され、いっそう賑やかとなる。 会も和となった頃、郷土出身の新進歌手千谷たけし氏が、賛助出演のため、多忙の中を割いて来会いただいた。ヒット曲「追憶の女」「ネオン花」の甘美な歌声に出席者一同ヤンヤの拍手を送る。 出陣者一同ヤンヤの拍手を送る。 会を代表して、清水松次氏(昭和17年卒)の坊ちゃんが花束を贈呈した。サイン会には、希望者があまり多く、出発の時刻に迫られ、断念しなければならなかった人もたくさんあった。

横山カウ、相崎ヨシ、小野塚五郎、相崎四郎、浅田 猛、小川権四郎、佐藤敏雄、松下利夫、三好シゲノ、佐藤道雄、山田利雄、山口文三、江沢キヨ、佐藤昭六、中静澄子、小宮幸雄、西山和子、山口光雄、星シズ、山口 京、氣田登美、浅田栄三、石井ゆり、小林重男、吉井 寿、野地キイ、小野塚洋一、鈴木ユト、清水ミイ、五十嵐貞雄、相崎イト、鈴木キイ、内藤八重子、金井ヨシ子、藤塚吉雄 ・昭和21、30年 安達和三、小林愛子、小宮きよ、阿部修次、佐藤安治、山口俊男、本田 徹、相崎富代、相崎達一、藤塚真澄、児島良子、星名恵美子、黒崎正、五十嵐サヨ、田村美加子、大塚順一、本田幾雄、小宮としえ、豊島文枝、神林佳子、山崎由紀子



氏花束を受けて歌う千谷たけし

橘 喬、五十嵐登美子、星野いき、大矢金吾、小倉和江、武田ヒロ子、木村睦子、山岸 雪、中村恵美子、山崎 雄、小野塚茂、宮沢道子、浅田 勇、本田幸男、浅田好司、佐藤 弘、横山忠平、矢作直芳、渡部幸子、中野一恵、小川エイ子、大阪照子、相沢文子、斎藤カツ子、深野敦子、岡 妙子、五十嵐久雄、安達 実、溝手俊一、千葉悦子、安達 進、松川セイ、本田善一、安達 敏、丸山良司、小野塚 弘、黒崎 勝、吉原 宏、佐藤康夫、山崎英輔 ・昭和35、40年 安達正明、平石和子、原田アキ子、藤塚 悟、小宮善興、大矢正明、芝 満男、阿部信子、重原文明、諸我時夫、吉井信三、山田耕平、吉沢ヨシ、黒崎玲子、佐野ケイ子、浅田 誠、吉崎和子、相崎俊夫 最高潮に達した頃、いよいよお待ちかねの空くじなしの、福引抽選会となる。かねて展示された盛り沢山の賞品に、一同大喜び。時の経つのも忘れ、和気あいあいの中に閉会となった。 司会の松下利夫氏のさわやかな「また逢う日を楽しみに！」の呼びかけのこぼれを、胸に噛みしめながら、三々五々散会した。 ふるさとだより(続) 学校後援会ができる 片貝小中学校の対外活動などを支援するために設立された。会長は歯科医の鈴木氏(三の町)。今後の活動を期待したい。

タビエンタプライズ 社長 橘 喬 (昭和22年卒) 中央区京橋 2-4 千石ビル TEL (274-5180) 各種印刷承ります。ぜひご用命を

安達三郎 港区北青山 1-6-8-301 港区議会議員 (408-1802) 片貝に生まれ東京で育ちました。東京片貝会員の皆様にお役にたつことがあったら申しつけ下さい。

大塚豆腐店 店主 大塚 功績 (昭和33年卒) 優子 (昭和35年卒) 江戸川宇喜田町 1364-6 TEL (680-8801)

第五回教育感謝祭

片貝公民館で挙行

浅田さんを名誉町民に推す

明日への人づくりと、古き良き片貝の風土をしのぶ教育感謝祭は、本年は第五回を迎えたが、去る九月二十八日、片貝町協議会、城址等管理委員会、公民館の共催で挙行された。あいにく当日は小雨模様で天候で、現地遊山台の式典はとりやめ会場を公民館に移し、三階西南の一隅に祭壇が設けられ、町民関係者三十名、小学校、中学校の児童、生徒六十余名が参席、午後一時から山口公民館長の司会ですすめられた。

まず浄照寺(小林文雄院主)、感銘を与えた。遺族を代表して内山さかえさんの懇切な謝辞、安達竜作さん(名誉会長)が動議として、片貝郷土

東京片貝会会計報告 (自昭和50年6月16日 至昭和51年3月31日)

| | |
|-----------------|-----------------------|
| 収入 ¥ 496,166 | 支出 ¥ 143,900 |
| 71,890 (前年度繰越) | 1,030 (事務用品) |
| 138,000 (年度会費) | 39,851 (会場費, 会議費) |
| 250,295 (前総会残高) | 23,534 (切手, はがき) |
| 19,515 (新年会残高) | 49,095 (会報13号700部) |
| 2,171 (銀行利息) | 11,000 (東京小千谷谷会, 感謝祭) |
| 5,000 (2) 寄付金 | 5,790 (武祝先生叙勲) |
| 9,295 (雑収入) | 13,600 (新員年案内, 役) |
| | 次年度繰越 352,266 |

上記の通り報告いたします。会計部 安達道宗 大矢福次
上記は適正・正確であることを認めます。合計監査 小林敬司 黒崎孝造

皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

上記の会計は、去る6月の総会で承認いただいたものです。つぎに総会以後の主な動きをお知らせいたします。

名簿印刷代(500部) 225,000円、名簿の広告にご協力くださいました方は、46名。金額186,000円。この不足分は一般会計より補充しました。

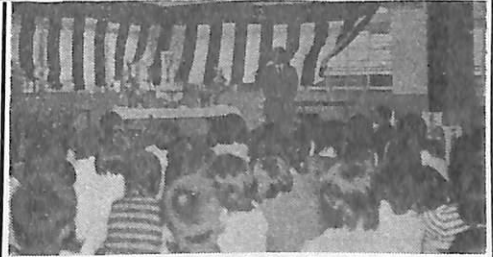
総会に要した費用は、当日の懇親会費、印刷、通信費等を合算して、537,420円。収入として、懇親会費、お祝金の合計、611,500円。(年会費を含まず) この他会運営のための費用がありますが、明細は次の総会で報告いたします。



史の編纂や古文書の解説に功績のある浅田壮太郎さん(八十歳)を、片貝町名誉町民としてすいせんしたいと提案し、満場の拍手賛成があり、今後の課題として研究することになった。また、児童たちには棟方志功の例をひき、根性づくりの大切であることを要請してあいさつを終った。

これより座をあらため宴会となり、三重堀繁蔵さん(東京片貝会会長代理)の首頭で二回乾杯、懇談の幕をひらき、献酬談笑などしきり、なごやかな交歓のひとときを過ぎ、五時ごろ散会した。

秋祭りとい三尺玉



撈する安達竜作氏

いっちょう様(二王子様)のお祭りという言葉は、子供時代の懐しい淡い思い出につながる。片貝に生れ、片貝に育った者には忘れられない行事の一つです。

屋台、玉送り、角力、煙火……その一つ一つに深い愛着を覚えます。今年もその祭りがやってきました。生憎九日は朝からの小雨模様で、三尺玉は取止めになり、十日に二つ上りました。年毎に賑やかになるように誠嬉しく思います。

ここで三尺玉の筒を紹介いたします。

学校の北側の道を登り、杉木立の間を右へ左へ坂道を曲がりながらゆく。登りきった所は一面の畑、ところどころに蕎麦畑が見える。少しゆくと、開田した田圃が

会員訪問

○高野三郎氏

明治24年3月の生れ、84歳。毎年総会に出席されるが、病氣らしい病気をしたことがないという。当時小学校は四年で卒業、10歳で郷里を出て、浅草の財布を作る見習となった。以来、震災、戦災に遭いながら、今日まで一貫して、ハンドバッグなどの袋物メーカーとしての地歩を築きあげられた。りっぱな店には、製品が山のように積まれており、言葉少ない中にも、業界で重きをなしておられるのが、よく窺えた。

○諸我時夫氏

昭和19年4月生れ。小千谷高校を卒業すると上京。大和徽章に勤めながら、日大商科に入學した。卒業後は丸の内武野税務事務所、実地に税務を勉強した。三年前に、大変むづかしい税理士の国家試験にパスして、いまは同事務所の大黒柱として活躍している。将来は更に一層の飛躍を期して日夜業務に没頭しておられる。

○松下利夫氏 昭和18年卒

川崎から南部線に乗り、鹿島田で下りて五分ほど、賑やかな商店街に毛糸の店を経営しておられる開店して三年というが、セーターカーデガンなど、若い人には魅力的なおしゃれの店である。

安達二郎さん死去

東京片貝会設立の当初、会員間の連絡に努力された安達二郎さん(三ノ町鹿嶋屋)は、呼吸器を患らい、約一年の長い間、都下清瀬病院で療養中であつたが、さる九月二十五日病あつたまり、永眠された。(七十歳)

あとがき

これまで新聞形式で編集してきましたが、今回から組み方をこのように変更しました。読み易く、且つ保存にも役立つと思ひます。この会報によって、会の活動が皆さんによく理解され、益々会員相互のつながりが深まることを念願しています。(佐藤)